

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600082		
法人名	特定非営利活動法人あかね会		
事業所名	グループホームあかね		
所在地	栃木県日光市鬼怒川温泉大原2-135		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成25年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の一人ひとりのペースを大事にしながら、生活の中で役割を担って頂き感謝の気持ちを感じて頂けるよう取り組んでおります。その一つに地域貢献として、近隣のホテルより頂いたたくさんのタオルを雑巾にし小学校、保育園に寄付しました。大変喜ばれたことでご入居者の生活の励みとなったようです。今年度はご入居者とご家族の交流を目的に公園でのバーベキューを行いました。職員とご家族の関係だけでなくご家族同士もいい関係を築けています。地域の行事では、自治会の行事だけでなく、習字の得意なご入居者は公民館の書道教室に通ったり、定期的にダンス教室に通い地域の方との交流を図っています。ご入居者が“活き活き”と生活できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの生き方に配慮し、日々の生活を地域とのかかわりを持ちながら充実したものにしています。利用者が自ら楽しみを感じられるように、職員が共通意識を持って支援している施設です。1. 理念や目標は、実践を踏まえて職員全員参加で作り上げる等、共有や実践がし易いようにつくられています。2. 地域との交流は、自治会の行事や地区の書道教室に利用者が参加したり、事業所の畑作業や花壇の手入れを近隣の方から指導を受けたり、双方向的な関係が出来ています。3. 支援計画については、実施状況の評価を行い、継続した支援が出来るように記録管理されています。それら資料は一元的に見られる様になっており、利用者一人ひとりの課題は、担当者のみでなく職員で共有し易く管理されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所してから1年が経過し見直しを行った。現況に合った新しい理念を職員全員で話し合い作成した。理念を掲示し日々のケアの中でその都度話し合い実践している。	開所後1年が経ち、職員全員が利用者に対して様々な支援を試みた結果を集約したものが理念として掲げられている。そのため職員一人ひとりが理念に基づいた支援が実行できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の行事には参加している。公民館の書道教室への参加や近隣の保育園や障害者の方たちとの交流会を設けるなどして交流の場を広めている。また、近隣方には花壇の手入れや野菜作りの指導をしてもらっている。	利用者が地域の行事に参加したり、地域の方がグループホームあかねの行事に参加したり、お互いが協力する機会を持ち交流している。隣の学校とも交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会、地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座に発表の場を設けて頂き地域の方々に認知症への理解を深めて頂けるような活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで行っている。地域資源・行事の情報交換、日々の活動報告の意見交換を行い、運営に活かしている。	参加者は行政関係者、利用者、利用者の家族などが中心となっている。事業所の報告では、利用者の様子を伝えたり、事業所の活動行事の様子を写真などを活用しておこなっている。報告を基に意見の交換も行い実践に活かしている	参加メンバーが固定しつつあるので、福祉関係以外の方やボランティアの人などの参加を促すとともに、特定の課題を取り上げる等、様々な意見が出る仕組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面での疑問点があると市役所担当者に相談し随時情報の交換行っている。	近隣に行政機関があり常に情報を共有し連携が行われている。市の認知症に関する理解を深める活動に関して、グループホームとして積極的に関る等の関係も築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者から日勤者出勤までは安全を確保するために施錠している。また、緊急時やむを得ない場合のみ施錠することもあるが、問題が解決した時点で鍵を開けている。また、入居者の意欲を削がず、動きやすいように臨機応変に対応している。	通常は事業所の玄関や扉には施錠を行わず、利用者が自由に行動し過ごしやすいように見守りを中心に環境整備がされている。職員全員が利用者の行動の目的は何かを常に考えて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	排泄、入浴、更衣時には特に注意深く体に虐待の痕跡がないか観察している。日常のケアにおいても同様に虐待と思われる傷がないか職員同士で報告し合い常に観察している。また、言葉使いには特に気を遣い、少しでも問題があった場合はその場で注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所から1年を通し職員の必要に応じて外部研修出席し2か月に一度のペースで施設内研修も行っている。学ぶ機会を持つことで活用できる支援が少しずつ出来るようになってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者それぞれに職員の担当者を作り、ご家族の不安や質問・疑問があった場合は職員内で検討し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や運営推進会議にて自由に意見を述べていただいている。また、ご家族が来訪時には職員が必ず一人対応し、意見・要望を聞いている。収集した情報については職員会議で報告し日々の申し送り行っている。	家族が運営推進会議や事業所に面会に来たときに職員は利用者の日頃の様子を伝え、また家族の話聞く機会をつくっている。家族から得た情報は、会議の場で提案し事業運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、カンファレンスにて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員の気づきや利用者の過しやすい環境作りへの意見は、定期的な会議以外でも申し送り等で話す機会があり、改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は現場にも携わり、職員の把握に努め、年2回の個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加し、2ヶ月に1回のホーム内職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の施設にて実習を行い、技術・意見等を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のこれまでの生活情報を伺ったうえで安心と尊厳のある生活ができるように常に考えている。本人が困っていることに対して少しでも早く解決できるよう問題点を抽出し対処している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問の実施やホームの見学を通しご家族の不安なことや要望に常に耳を傾け理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の際に本人と家族の生活に対する意向や本当にその時必要としているニーズや支援をご家族の話を克明に聞くことで見極めている。他サービス利用を含めた対応はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に感謝の気持ちを持ち言葉(カード)にし伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月に一度「用意していただく日用品リスト」を送付し定期的に用意していただき、定期受診の付き添いも行っていたくことで本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族同様に本人の知人や友人が他の入居者や家族を気にすることなく訪問できるような雰囲気づくりと時間や周りを気にせずにゆっくり話せる環境を整えている。本人の希望を聞き、臨機応変に個別対応して外出することもある。	馴染みの人の多くは家族になるので、定期的な医療機関の受診や本人が事業所で生活するに必要な品物を出来るだけ家族に買って来てもらうようにしている。友人が訪ねてくる時もあり、訪問し易い雰囲気や環境作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	開所から1年が経過し意思の疎通が図れずトラブルこともあったが、この1年の歳月を共に生活することで時と場合によっては自分が出来ることで相手を助けてあげたり歩行不安定の方と手をつないで歩いたり優しさと助け合いの心が入居者に芽生えるようになった。この良好な関係が継続できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の悩みや不安に適切な相談やアドバイスを提供していきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に耳を傾け本人の意思を尊重している。自分の意思表示が上手く出来ず周りに誤解されてしまう方に関しては本人が表現できない気持ちを汲み取り言動の原因を理解できるように努めている。	職員は利用者の行動の本質に目を向けて、常に疑問を持ちながら対応している。統一されたケアではなく一人ひとりの利用者に合ったケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックの実施、心身状態を観察にて把握している。申し送りや職員同士の情報交換を重ねている。個々の能力については日々の生活の中で出来る事出来ない事の仕分けをしながら本人の有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員による担当者会議を開き本人、家族の生活に対する意向や希望、要望を聞き計画に反映させている。また、特別な変化があった時はすぐに家族に連絡し話し合っている。その時の状況に応じて介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員はいるが、様々な課題は一元化した表にまとめられ担当者だけの課題としてではなく事業所全体の課題として職員で共有し易く管理されている。又計画とともに実施状況と評価も把握され継続した支援が出来るしくみとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特別な変化があった時などは申し送りで職員全員が把握し、色々なことを試す期間を持ち全員で考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な病院受診はご家族にお願いしているが都合がつかない場合は職員が付き添っている。その時々ニーズに合わせて職員を増員できるような柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道の好きな方は公民館の書道教室に参加したり、ダンス教室へ参加しその人に合った地域の活動へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が変更しても良好な関係を保つように支援している。	今までのかかりつけ医を変更することなく利用できるので不安なく生活ができています。基本的には家族が医療機関へ連れて行くため、事業所での様子や健康状態を記入したものを家族に渡している。家族は、かかりつけ医へ報告し指示をもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の心身の状態や情報、気づきを看護師に伝え指示を受けながら入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開所時から現在まで入院したケースはない。入院した場合には入退院時情報提供を行い医療機関と情報を共有し入院中、スタッフ、管理者が訪問し退院を含め今後の方向性について話し合いが出来るように考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には契約時に当グループホームでの介護できるラインを伝え入居が厳しくなった時でもスムーズに次の病院や施設に移れるように配慮している。	事業所で現時点で出来る事と出来ない事を明確にして、家族、本人、主治医と相談しながら本人にとっての最善の方法を考え実行している。	今後は看取りを視野に入れた社会資源の見直しや様々の局面に応じた対応マニュアルの整備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し急変時にも速やかに対応できるように備えている。救急蘇生法の研修等にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回の避難訓練を行い入居者の安全な避難方法を確認したり、自治会組長や近隣の方の連絡網を作成し協力が得られる体制を築いている。	避難訓練は消防署の立会いのもと年2回実施されている。訓練時の対応の振り返りを行い、改善できる点は改善して適切な避難誘導を心掛けている。	夜間を想定した避難訓練を実施して、夜間時の協力関係の見直しを行うことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや性格を尊重しさりげない声かけ、言葉かけを心がけている。プライバシーの確保に注意し記録など個人情報の取扱いの徹底に努めている。	職員が各利用者の情報を把握して、一人ひとりの利用者に対して性格や職歴等を配慮した対応をすることにより、住みやすい環境にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で本人の思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場面を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、掃除の時間はこちらで決めているが、その他の時間は一人ひとりのペースを大切にするように心がけている。その日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には外出用のおしゃれを着て出かけた、入居者の好みを聞きその人らしいおしゃれが出来るようにしている。また、月一回美容院から来訪しおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、誕生日には本人の好物や赤飯、ケーキ等を提供している。食事の準備や片付けが出来た方に手伝って頂いたり他の方には味見をして頂いている。	利用者にも食事をつくる等の役割をもってもらうことで、食べる楽しみ以外のものも得られるようにしている。また、外食したり、事業所内でバイキング料理を行い利用者が選択して食事を楽しむ等の機会をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養士のアドバイスを受け栄養のバランスに配慮している。水分の取りにくい方にはコーヒー、ジュース、ゼリー等提供し水分量の確保に努め水分量のチェックを行い情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣になり定着している。仕上げ磨き舌ブラシは継続して行っている。義歯使用の方はポリドント使用しながら口腔内を清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。トイレ案内声かけ等行い失敗の回数を減らすように努めている。尿とりパットの種類、声かけの時間等個々に合わせた対応を検討している。	一人ひとりの排泄のパターンを把握するために、利用者毎に日々の食事量、水分量からバイタルの状態がわかる表を作成している。排泄の乱れなどを予測しやすい体制をとって支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では繊維質の多い食事の工夫、ヨーグルトを摂取できるように献立のメニューに取り入れている。また定期的に乳酸菌飲料の購入をし飲んでいただいている。自然排便を促す取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	概ね時間は決まっているが本人の体調や希望により変更したり、入浴拒否の場合は無理強いせず時間をずらして声かけを行っている。	入浴を好まない方には、声掛けに工夫をこらし対応している。なるべく利用者の希望する時間に入浴してもらうことで、リラックスする場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活状況を把握し体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。日中適度な運動を促し生活リズムを作り、個々の室温にも配慮し安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握しいつでも確認できるようにファイルに保管している。変更があった場合は連絡帳に記載し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調や気分を見極め洗濯たみ、食器洗い、食器拭き、食事の手伝いなど日常の手伝いをして頂いている。パズル、ボードゲーム作成等入居者が興味を持ったことには積極的にとりくむようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に職員と買い物に出かけている。春の花見、秋の紅葉と野外の散歩は弁当を持ち季節を肌で感じて頂いている。帰りたいたいと希望がある時は家族と相談し外出できるようにしている。	日常的な散歩や季節感を取り入れた遠足の企画など、外出支援は積極的に行われている。また家族も参加しての外出では利用者の普段見ることのない表情も見ることができ、家族にとっての新たな発見の場でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の申し出により全員預り金として保管し必要な時にすぐ使用できるようにしている。本人が財布を持っていないと不安だという方には家族と相談し本人用・預かり用として財布を2つ用意し本人用を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話したいと要望があった時は応じている。定期的に手紙を書いて送ってき下さる家族の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂には季節のある花や、入居者が作成した四季折々の貼り絵を飾っている。椅子の足にカバーを付けるなどして不快音が最小限に防げるような工夫をしている。	天井も高く圧迫感がない、天井から日の光がさしているのでフロー全体が明るい造りになっている。共用空間には利用者がレクリエーションで行った季節感のある作品を飾ったり、季節の花が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっているが相性や生活の様子を観察しながら席替えをしたりテーブルのレイアウトを変更して共用空間の中で居心地のいい場所を提供している。一人でゆっくり過ごせるようにソファを設置して居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた食器、箸、家具、日用品、寝具などを持参して頂いている。暮らしやすいように本人、家族と相談し部屋のレイアウトを考えている。仏壇を持ってきている方は花壇の花を摘んでご主人にお供えされている。	居室の家具とベットは備え付けであり、家族の負担を減らしている。部屋のレイアウトは本人と家族の話し合いの中で本人の居心地の良い環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札はさりげなく飾り自然に分かるように配慮している。トイレ・浴室には表札や張り紙を貼っていないが、入居者は混乱なく過ごせている。		